

平成 24 年 12 月 21 日

瑞浪超深地層研究所の施設活用について

超深地層研究所跡利用
検討委員会事務局

昨年度に実施された第 11 回の超深地層研究所跡利用検討委員会（平成 23 年 10 月 28 日）において、瑞浪超深地層研究所（以下、「研究所」といいます）における体験学習への取り組み状況や情報発信、研究坑道の施設供用、深度 300m ステージの活用状況等をご報告させていただきました。

今回は、昨年の本委員会以降の研究所における体験学習への取り組み状況や情報発信、研究坑道の活用等について紹介させていただきます。

1. 研究所における体験学習への取り組み

① 学生を対象とした先端科学体験

高校生のための先進的科学技术体験合宿プログラム「サイエンスキャンプ」を平成 24 年 8 月に開催しました。「感じてみよう!!地球のすがた～地下の世界を探る～」と題したテーマのもと、全国から 10 名の高校生が参加して地層や地震・火山等の地球科学について学びました。

また、文部科学省が進める科学技术、理科・数学教育を重点的に行う学校「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」に指定された高校の研究所見学の受け入れや岐阜大学等への講師派遣の協力を行いました。



サイエンスキャンプ



SSHの施設見学



岐阜大学への集中講義

② 各イベントへの出展

瑞浪市、中部経済産業局主催の「おもしろ科学館 2012in みずなみ」等、各イベントへの出展を行いました。各イベントでは、「地下について学んでみよう！」をテーマに断層や液化等の実験を体験していただきました。



おもしろ科学館 2012in みずなみ

③施設見学会及び報道関係等

施設見学会を毎月1回開催しています。平成23年11月から平成24年12月7日までに、2,743名（うち入坑者数：2,129名）の方々にご見学をいただきました。報道関係では、新聞・雑誌やテレビ放映による研究所の紹介等がありました。

2. 情報発信

①地域への広報活動

(1) 事業説明会の開催

瑞浪超深地層研究所における事業説明会を各自治体及び地元区等へ毎年行っております。

(2) 広報誌による情報発信

超深地層研究所計画における研究内容や施設の施工状況などを掲載した広報誌、地層研ニュースを毎月1回発行しています。

(3) 東濃地科学センターセミナーの開催

地球科学やエネルギーをテーマにしたセミナーを毎年開催しています。今年度は平成25年2月17日に「杉戸真太」氏（岐阜大学理事副学長）をお招きして「3連動（東海・東南海・南海）地震の脅威～東濃地域で想定される被害と防災対策～」と題して、瑞浪市地域交流センター「ときわ」にて開催予定です。



東濃地科学センターセミナーの様子

(4) 多治見ビジネスフェア「き」業展への出展

日本原子力研究開発機構が所有する特許や技術を活用した製品（水と親和性を改良した和紙で作った「金屏風」、チタン系金属の溶接技術に係る特許技術を利用した軽くて錆びない「理容はさみ」等）を来場者に紹介しました。今年度は、平成25年1月18日、19日に開催される予定です。



「き」業展の様子

(5) 地層科学研究 情報・意見交換会の開催

地層科学研究の研究開発成果や状況等について情報交換やご意見をいただくことを目的に毎年開催しています。今年度は11月14日に瑞浪市地域交流センター「ときわ」にて開催され、全国の大学や研究機関、企業一般の方を含め約140名が参加し、有意義な意見交換が行われました。



情報・意見交換会

②地域機関等とのタイアップ

10月16日、17日の2日間、中学生の職場体験学習の受け入れを行いました。職場体験では、河川水分析のための採水やボーリングコアの観察等を行いました。また、サイエンスワールドとの共催で「もっと深〜く地層探求」と題して、サイエンスワールド周辺の化石が含まれる地層観察、研究者とともに瑞浪超深地層研究所の地下500mから採取された水の分析や岩石の観察を実施する予定です。



河川水の採水

③管理棟の展示コーナーの整備

管理棟の一階の展示コーナーにある電子掲示板や壁面スケッチ模型（卓上版含む）等、各コンテンツを追加・更新を行いました。また、深度500m予備ステージの貫通の岩石を記念品として、見学者や来訪者に配布しています。



(管理棟展示コーナー)

3. 研究坑道の活用

①説明用パネルの更新

昨年引き続き、深度 300m ステージの研究坑道の説明用パネルを適宜更新しています。



深度 300m 研究アクセス坑道



深度 300m 研究アクセス坑道
11m 計測坑道

②施設供用

昨年引き続き、東濃地震科学研究所における研究坑道への地震計・歪計による観測及び名古屋大学におけるニュートリノ捕捉用原子核乾板の貯蔵を行っています。



応力計の設置
(深度 300m 研究アクセス坑道 11m 計測横坑)



ニュートリノ捕捉用原子核乾板の貯蔵
(深度 200m ボーリング横坑 主立坑)

8. 今後の施設活用について

研究所では、体験学習の場としての活用や、研究成果等の情報発信、研究坑道の活用、外部機関の利用の促進等に引き続き取り組んでいきます。

以上